eS4

エスフォー
EUROMOTIVE MAGAZINE

62

2016 MAY

刺激的でセンス溢れる
ユーロスタイルを提案します

SUPER SPORT & EXOTICS
華のある頂点系モディファイド

フェラーリ458スパイダー／ランボルギーニ ウラカンLP610-4
メルセデスAMG GT S／ポルシェ911カレラS／ポルシェ911ターボS

VWA VOLKSWAGEN & AUDI PRIORITY
フォルクスワーゲン&
アウディ偏向主義

フォルクスワーゲン ゴルフVII GTI／アウディTT S
アウディRS3スポーツバック

WONDERFUL WHEEL SPRING COLLECTION
春に履かせたい注目モデル

BIG EVENT EXPRESS
大阪オートメッセ
名古屋オートトレンド

【TOP ISSUE】

BMW Modified Performance
キレイ系BMWが魅力的!

BMW 1Mセダン／M4クーペ／F33 Mスポーク

【SPECIAL FEATURE】

WIDE BODY & FENDER ROCKETS!!
ワイドボディ&フェンダーで猛烈に!!
ラディカルボディカスタムの時代が再び到来した

フォルクスワーゲン・ゴルフVII R／フォルスクワーゲン・ゴルフV GTI／アウディA6アバント 2.8FSIクワトロ
メルセデス・ベンツCLK350カブリオレ／BMWアクティブハイブリッド3
BMW M6クーペ／アウディR8 5.2FSIクワトロ

GEIBUN MOOK

LAMBORGHINI

LAMBORGHINI HURACAN LP610-4

OWNER>>泉谷サン　CALL>>MACARS（メイカーズ） [079]252-3929 www.macars.net ,
HYPER FORGED WHEELS（ハイパーフォージドホイールズ） [072]256-6664 www.hyperforgedwheels.com
MODEL>>村上さをりサン　PHOTO>>TOSHIO NOGUCHI（のぐちとしお）

美女と猛牛ランデブー

大阪って、華やかなスーパースポーツを乗りつけたら楽しい街。クルマを横付けできるオシャレなエリアや街並み／ストリートが東京よりずっと多いし、そういったエリアには不粋なガードレールがあまりない。さらにファッション系の路面店やオープンテラスのカフェ／レストランもけっこうあるから、ウラカンのような派手な猛獣に美女を乗せてふらっと出掛ける――そんなシーンだってサマになる、というかちょいちょい見かける。というわけで“スーパースポーツ＆エキゾチックは大阪でこそ乗りたい”と決めつけ、ウラカンLP610-4をオーナーの泉谷サンに乗ってきてもらった。モデルを務めてくれたのは泉谷サンの妹サンで、関西のTV番組にも出演するタレントのさをりサン。つまり大阪のこのナイトシーン、ネタじゃなくてリアル！

で、話をモディファイに振ってみると、このウラカンを手掛けたのは兵庫・メイカーズで、泉谷サンの“ランボにはハイパー”というイメージから、ハイパーフォージドHF-LC5の20／21インチをマウントした。でもそのままでは、ド定番なデキのウラカンになってしまうから、フィニッシュに工夫を凝らす。白いボディとイエローのキャリパーに合うカラーとしてゴールドを選択。もっともリムもディスクもアナダイズのゴールドにすると、金無垢チックになるのは間違いないから、そのぶんスポークサイドにポリッシュを入れたりして、シャープなイメージになるよう演出した。ちょっとしたアレンジだが、ホイールのイメージは大きく変わる。

サスペンションはノヴィテックのトレドからローダウンタイプのスプリングを選んで組み込んだ。低すぎもせず乗り味もビッグチェンジはナシ。

さらに大阪の新御堂筋を流すクルーザーであっても超絶な快音とパフォーマンスアップは欲張りたいから、アクラポヴィッチのエボリューションライン・チタンエキゾーストを投入している。

そう、いつまでも眺めていたくなり、耳で音を追いかけたくなるクルマとは、このウラカンのこと！

美女と華のある猛牛のコンビネーションとはこのこと。

1

2

3

4

■SPECIFICATIONS_LAMBORGHINI HURACAN LP610-4

WHEEL HYPER FORGED>>HF-LC5 F:20×9.0J R:21×12.5J Finish:Anodized Gold Disk with Spoke Side Polish/Anodized Gold Rim
TIRE CONTINENTAL>>ContiSportContact 5P F:245/30R20 R:325/25R21
SUSPENSION NOVITEC>>TOREDO Sport Spring Kit
EXHAUST AKRAPOVIC>>Evolution Line with Carbon Tail Pipe

①週末の新御堂筋を駆け抜ける。ミナミといわれる心斎橋のエリアは、5車線の新御堂筋沿いに高級ブランドの路面店がずらっと並ぶから、日本で一番気持ちよく流せるストリートのひとつ。 ②サスにはランボルギーニ専門の欧州ブランド、ノヴィテック・トレドからスポーツスプリングをセット。車高は純正の車高調アジャスターで設定できる。 ③アナダイズドゴールドのディスク＆リム。スポークサイドにはポリッシュを入れることで、ゴールドのエクスクルーシブな感じをさらに引き出した。 ④エキゾーストはアクラポヴィッチのチタン製エボリューションライン。爆音系ではなく、ヨーロッパ的なナイスサウンドを弾き出す高級品だ。

VWA VOLKSWAGEN & AUDI PRIORITY

VWA VOLKSWAGEN & AUDI PRIORITY

色のコーディネートとコントラストで、オトナな雰囲気をジェネレートする

SPECIFICATIONS / AUDI TT S

WHEEL >>> HYPER FORGED>>HF-LC5 F:20×9.5J R:20×9.5J Finish:Brushed Tinted (Matte) Disk+Bushed Anodized Titanium (Matte) Outer Rim/Anodized Black Inner Rim
TIRE >>> NITTO>>INVO F:255/30R20 R:255/30R20
SUSPENSION >>> KW>>Ver.3 Adjustable Coilover
ENGINE >>> APR>>Stage1 ECU Programming Carbon cold Air Intake System Turbo Silicon Hose Complete Kit Turbo Muffler Delete
EXTERIOR >>> AUDI>>US F Grille

01_ フロントグリルはナンバーベースが付かないUSパーツ（撮影のために装着）。また5xによる細かな仕上げを入れているらしいが、詳細はシークレット。
02_ リム幅9.5J、タイヤ255/30と乗りやすさを重視したフットワーク。車高も5xの標準よりは上げているが、キャンバーの付き方の関係でクリーンに見える。
03_ ディスク、アウターリム、インナーリムのフィニッシュにこだわったハイパーフォージドHF-LC5。ピアスボルトには12ポイントのクラシックタイプを選ぶ。ホイールオーダー時のオプションだ。
04_ 真横から見たときのサイドビューのカタマリ感が5xの重視する部分だが、見てのとおりバッチリ。
05_ APRのステージ1 ECUをインストールし、カーボンコールドエアインテークをセット。ハイオクガソリン使用で、最高出力375ps／最大トルク52.9kgへとパワーアップする。
06_ APRターボシリコンホースコンプリートキット。アクセルレスポンスが良くなる効果がある。
07_ APRターボマフラーデリート。こちらもアクセルレスポンスの向上に貢献するパーツだ。

VWA VOLKSWAGEN & AUDI PRIORITY

5x流、ディテールの出し方

VWA VOLKSWAGEN & AUDI PRIORITY

AUDI TT S

OWNER>> 吉田典正サン
CALL>>5x（ファイブエックス）[049]227-2555 www.5-x.jp
PHOTO>>TOSHIO NOGUCHI（のぐちとしお）

「この8S TTSのオーナー・吉田サンは、都心部での移動が主な乗り方で、お仕事はクリエーター。ほかの人とちょっと違うリクエストをいただき、改造車っぽくならないたたずまいを目指しました。クリエーターのクルマだけに、色のコーディネートを考えさせていただきました」と、5x・フカオサン。うん、クルマを目の前にすると、確かに雰囲気がある。ほかの8S TTでは感じられないなにかが。

「ボディが鮮やかなブルーなので、グレーとのコーディネートでコントラストを付けてみました。ホイールはハイパーフォージドのHF-LC5。定番モデルですが、ブラッシュド・ティンテッドマットクリアのディスクとブラッシュド・チタングレーアナダイズドアウターリムのフィニッシュです。ディスクとリムは同系統の色ですが、微妙なフィニッシュの違いで、より立体感を付けていますネ。

サイズは、用途を考えて少し控えめな20×9.5Jと255／30R20インヴォの前後としました。フロントにセミコンケーブ、リアにディープコンケーブディスクを選んで、スタッガー的に見せました。ぐっとオトナの雰囲気に仕上がったでしょう！」

車高調は、こちらも定番KW Ver.3を使ってローダウン。フカオサンによれば、5xの標準よりはちょっと上げ気味だそうだが、どの角度から見てもとてもイイ感じ。これ、4輪の車高がビシっと合っているためらしい。5xでは、ちょっとした4輪の高さの違いを気にするそうで、ビシっとした姿勢ができるまで、何度でもリフトに上げて車高調のアジャスターを回すのだそう。車高って、4輪どれも同じ量を下げるのは実は大変な仕事。車高調側で落としたい量を決めただけではチグハグに見えることもあるし、どれか1輪だけ上げたくても、4輪とも調整し直さないとバランスが合わなかったり、と。簡単なようでいて、経験とセンスがものをいう部分なんだ。

またフカオサン、色のコーディネートに関してはちょっと細工をしていると話してくれた。

「言ってもいい部分では、ホイールのインナーリム側をブラックアナダイズ仕上げとしたことですね。ブレーキダスト対策が主な目的ですが、やってみるとクルマがグッと引き締まった感じに見えます。ホイールを選ぶ際の、高価なオプションになってしまいますが、視覚的な面でも効果はあります（笑）。

あとこれはオーナーにも知らせていませんが、2つほど細工をしています。5x的な自己満足的な仕上げ方なので、ここで言うほどのものじゃないです(笑)」とフカオサン。こうしたちょっとした色の使い方とか組み方の配慮だけで、これだけ雰囲気を変えてしまうのだから、5xってやっぱりスゴイ！